

アメリカの住宅事情

米國西部木材製品協会

リチャード・スコリック

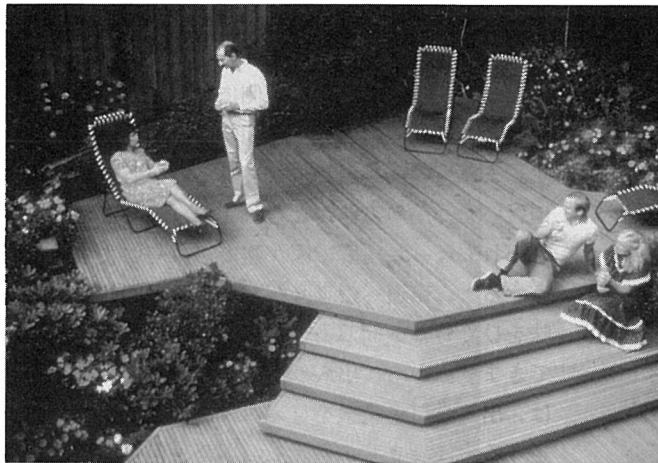
はじめに

この20年、アメリカの社会および住宅は大きく変化してきました。そして日本もまたアメリカ同様に、住宅事情は転換期にきていると考えられています。そこでこれからアメリカ住宅の現状について、特にアメリカの住宅事情に影響を与えた変化要因について、私なりに分析を行ったのでその一端を簡単に紹介したいと思います。皆様のお役にたてば幸いです。

多様なライフスタイルが生みだした

当世アメリカ住宅事情

アメリカでは核家族の問題は、もはや住宅のデザインを決める決定的な要素ではなくなりました。今日の社会には、多種多様なライフスタイルとニーズがあります。また、アメリカの社会は大変流動的であり、住宅を将来買い変えることのできる日用品の一つとして考えられています。このような考え方の変化は、住宅のニーズに対する変化として考え合わせるとアメリカの住宅事情が容易に理



解できます。

1985年には民間の新規住宅の62%が一戸建てでした。この内の6%は伝統的な核家族型の住宅様式でした。残りの94%は大変、多様なニーズを持つライフスタイルに応えたもので、したがって近年の住宅建設業界はこれらの特別な要求に応えることを目的とするようになってきました。たとえば、伝統的な核家族の他にも共働きの家庭、片親の家庭、“ミングル”と呼ばれる共同生活世帯、老人のみまたは独身者のみが住む団地、子供たちがすでに成長して家を出たいいわゆる“エンプティ・ネスター”専用住宅、また家庭と仕事場が一緒になった住居、等々があります。そして残りの民間住宅の38%は、複数の家族用集合住宅です。この集合住宅は、建設コストの値上がり、ライフスタイルの変化、また郊外から都心に住居を移すのが流行したことなど様々な要素を反映して1975年の20%から38%へ増加してきました。

敷地の利用方法

今日生じている住宅事情の変化要素の一つに、敷地の利用方法に関連したものがあります。すなわち、住宅密度が高くなるにつれて空間が減少しています。また密度が濃くなりますと建物の目前は壁の様になり、とても狭く感じます。この問題を解決するためには“zero-lot line zoning”という、敷地の新しい有効利用方法が考え出されま



した。この方法によれば、家同士が隣接する一方を境界線ぎりぎりに家を建てることできるようになり、これにより家の両側にできる二つの空間を合わせ、一つの大きな空間を作ることができます。また家の前が通路にとられるのを避けるために、いくつかの方法がとられており、たとえばそれぞれ異なった角度で家が建てられています。こうすると、車道への進入が楽になると同時に、興味をひく外の空間および景観をつくり出すことができます。さらに出入り口の異なる庭または空間は、出入り口に特徴を与えるほか、プライバシーを守るのに役立ちます。この場合、色彩を豊富に使用することにより外観が変化し、視覚的イメージを柔軟にします。この様に、色彩観の考えやルーフトラス付きの小さなガレージを加えれば、より一層敷地空間のおもしろさを広げることができるでしょう。また、全体構成の関係から庭あるいは空間が、ガレージと出入り口の奥になっている場合があります。この場合、空間はより広くなり、道路からの騒音を遮断しプライバシーを守ることができます。

住居と商業地の多目的利用プロジェクトでは、商業的な性格を弱め、人が楽しむ空間を作り出すとする傾向にあります。いくつか複数世帯でのプロジェクトでは、一戸毎にそれぞれ出入り口階段を設けて混雑さを解消しています。この設計を担当した会社は、プライベートなオフィスと住居を組み合わせ、その中庭を互いにプライバシーを守る緩衝地帯にしようとしています。さらに敷地利用に関する最も大きな傾向は、建築業者が高い住宅密度についてその埋めあわせをするため、快適性を提供しようと努力しているところにあります。すなわち、屋外の空間との調和を考え合わせ水辺を造ったり、様々な景観造りをするのがたいへん流行している現状からもご察しいただけるといいます。屋外の空間とともに、様々な要素が環境に特徴と親しみを与えていると言えます。

居住空間における最近の傾向

最近の新しい流行現象として、次の3つの居住

分野が取り上げられます。すなわち、キッチン・バスそしてベッドルームです。

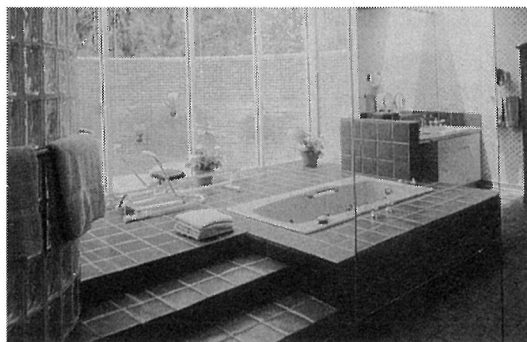
◦キッチン

キッチンはもはや、家の奥に隠しておく部屋ではなくなりました。キッチンは家庭生活の中心として機能しています。すなわち注目すべき設備や高品質の生活用品を、その空間に数多く見つけることができるからです。この新空間は気楽に食べたり、楽しんだりできる解放性のある場所として意味があります。解放性と閉鎖性の程度は、空間設計によって異なった感じをもたらす大きな影響力があります。たとえば、アイランド・カウンターなどはとても人気があり、造り付けの椅子などが急速に普及しております。



◦バス

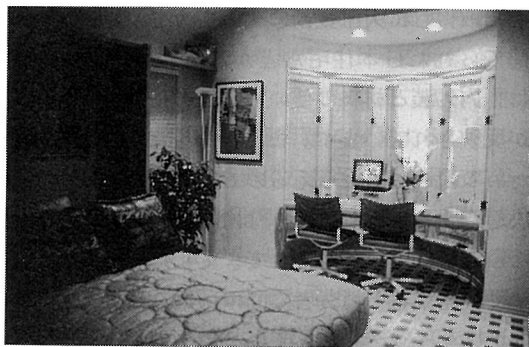
バスは位置要因だけではなく、一般的に大きな



変化を経て形成された特徴の多い住空間です。最近のバスは広々とし、自然光をいっぱい取り入れています。全般的にはより高級な製品を使い、温泉のような雰囲気を創り出す傾向にあります。またトイレはほとんどバスとは別に、個室にする傾向になっています。

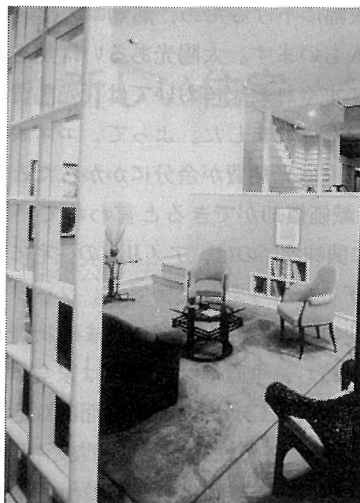
・マスター・ベッドルーム

バス同様マスター・ベッドルームは、ただ単に寝るためだけの場所ではありません。共通した特徴として、ウォーキング・クロゼット、専用バス、そして夫婦でプライベートタイムが楽しめるラウンジ等を設けることが上げられます。あるいは、ベッドルームのスペースに専用バルコニーを設け景色を眺められるようにしたりして、快適性や雰囲気作りにおんを移す傾向となっている様です。



ダイナミックで奥行きのある空間を作る

自然な光を取り入れ、部分的な囲いや仕切りを設けることによって空間の層を作り出す工夫は、小さな空間をより大きな空間に見せるのに役立ちます。その方法の一つとしては、部分的な景観をそれに続く空間または屋外に提供することで、より奥行きのある景観を作り出すことを可能とすることです。一つの空間を通り抜けると、これらの景観は常に変化して、その変化がより景観をダイナミックにします。たとえば、フロリダにおける住宅開発計画において建築家は、きわめてオープンな設計と、広く奥行きのあるポーチを使うことで、小さな家をとて大きく見せることを可能に



しました。またその他、800sf(約72m²)の家を自然光とダイナミックな設計でより大きく見せることに成功した例もあります。すなわち空間の概念は、ある特定の景観へと注意を向けることで大きく広げることが可能です。

縦の空間の利用

より刺激的で広い空間を作るもうひとつの方法として、縦の空間の利用があります。単に平らな天井と箱のような部屋では面白みがありません。しかし、水平と垂直空間を総合的に利用すること、具体的には照明の想像豊かな利用によって、小さな空間を刺激的で楽しい場所に仕立て上げます。一例として2.5階の一戸建て住宅では、自然光を屋根裏から十分に取り入れ、垂直空間を有効に利用しています。

エネルギー問題と住宅

1974年のオイルショックは、今日の住宅に少なからず影響を与えています。住宅設計における革命は予想どおりには実現しなかったものの、温度効果とソーラ・デザインは徐々に重要なテーマになってきました。

法規制では、住宅のデザインと設備における省エネルギーの効果的な基準を言及しているにすぎません。しかし、建築者の中にはエネルギーの

ストを大幅に下げするため、熱効率の良い住宅を開発した人もいます。太陽光あるいは熱を遮断した気密性にすぐれた家においては、光熱費はほとんどがカットされました。よって、エネルギーコストが高い家は光熱費が余分にかかったとしても、3.5年で減価償却ができると言われていました。

さらに興味深いのは、アメリカの住宅に対しソーラ・デザインが与えた影響です。ソーラ・システムは、他の居住空間と同様にうまく機能しています。すなわち、垂直なスペースは家全体に熱を伝える役目を果たし、ガラスの多面的な活用により自然な光を取り入れ、植物を育て、室内を美化し、また室内と外観の関係をより強固なものにすることもできます。また、家を暖・冷房するために集めた熱エネルギーを再び放出させる方法がいくつもあり、これらはいずれも近年の住宅施工の際の関心事であります。

住宅改造の現状

さらに住宅における比較的新しい傾向として、



建物の改造があります。改造の対象となるのは、学校・工場・倉庫などです。むしろ、新しい住宅を建てるほど簡単ではないかもしれませんが、一旦改造した建物はユニークで威厳のあるものに変化します。

職人芸と細かな配慮

住宅の細部まで注意を払った職人芸が、第二次世界大戦前に建てられた住宅でよく見受けられます。しかし、その後の住宅建設ブームとともにこの職人芸は消えていきました。そして今日、再びその職人芸に対し熱い視線が注がれています。その傾向として、多くの建築者が伝統的な形と細やかな技術を使うことで過去を再現し消費者をひきつけていますし、伝統的な建築技術を現代技術に取り入れている建築者もいます。たとえば、ニュー・イングランドのポストアンドビーム工法や、京都で取得した大工技術によってカリフォルニアに建てられた日本住宅などがあります。この住宅は、内外装と材料の使い方にこの伝統技術の考えが反映されています。また、家をただ単なる住むための箱としてとらえるのではなく、より以上の快適空間とするために、なにか特別なものを加えたいという要求が生まれてきました。現在、アメリカの建築者・消費者の間には、このような考え方が徐々に浸透してきているようです。

「木製屋外施設展」 出展募集

会 期 平成2年7月～10月（4カ月）

会 場 北海道立林産試験場

旭川市西神楽1線10号

主 催 （社）北海道林産技術普及協会

北海道木質材料需要拡大協議会

展示品 ログハウス、遊具、フェンス、
ベンチなど屋外施設なんでも。

お問い合わせは下記へ 資料送ります。

北海道林産技術普及協会

電話 0166-75-3553